

妙安寺だより 300号

お寺の行事への参拝は

お寺の行事は、信仰心を深め、功德を積むという大切な意味があります。全ての行事に出席するのが一番望ましいことはいまでもありませんが、それぞれの事情で難しいことです。

ただ、「忙しいから」「用事があるから」ということで、一度も出席されない人と、「何とかして出席したい」と思っている人とは、信仰心の姿勢が自ずから違うのです。

例えば、丁重なる欠席の返事とともに、お布施を同封される人や、行事の前後に、お供えの品を持って、お参りされる人もあります。このように、常にお寺の事を気にかけてくれる心が尊いのです。

日蓮聖人は、

「それ、信心と申すは別にこれなく候。妻のおとこ(夫)をおしむがごとく、おとこの妻に命を捨つるがごとく、親の子をすてざるがごとく、子の母にはなれざるがごとくに、法華経、釈迦、多宝、十方の諸仏菩薩、諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華経と唱えたまつるを信心とは申し候なり」

と教示されています。

「信心というのは特別なことではないのだよ」という、日蓮聖人のお言葉に、私たちは大事な教えを受けることが出来るのです。

(※当山の行事については、昨年配布した暦をごらんください)

指きりげんまんに隠された怖い由来

「指きりげんまん うそついたら針千本飲ます」

子供の頃に、何か約束するときには、相手の小指と自分の小指をからませて、約束を誓ったもので、たわいない子供の遊びと思われでしょうが、その由来を知るととてもそんな可愛らしいものではありません。

「指きり」は、遊女がお客に不変の愛を証明するために、小指を切ったことに由来するといわれます。

また、「げんまん」は「拳万」と書き、約束を破ったときは、拳骨で一万回殴る制裁を意味します。

その上で、うそをついたら「針千本」を飲ませるわけですから、裏切り者(約束を破る者、うそをつく者)には、徹底的に制裁や報復を加えると宣言しているのに等しいのです。

この「指きりげんまん」は、江戸時代から、子供たちの間で使われていましたが、実はこのあとに「死んだらごめん」という一言が加えられていたそうです。

つまり、死なない限り、約束は必ず守り、うそは絶対につかないと宣言しているわけなのです。

これは、子供の遊びの中で、約束を守ること、うそはつかないことの大切さを、具体的に学ばせる、昔の人々の知恵だったかも知れません。

(「日本人数のしきたり」より)

笑いの泉

◎お金持ちになる秘術

ある町で一人の男が大声で、

「飯を食べなくても腹の減らない方法、衣服を着なくても体の温まる方法、お金持ちになる方法の三大秘術伝授書一冊千円」

と言って売っていたので、一冊買って中を開けてみると

「飯を食べなくても腹の減らぬ方法は、餅を食べるべし。衣服を着なくても体の温まる方法は、湯(風呂)に入るべし。

お金持ちになる方法は、半紙を紙幣のごとくに切り、百円、千円、と自ら書くべし、そうすれば一日何万円でも出来るなり」

と書いてある。

啞然として驚いたお客は、

「第一と第二はまだごもっともとしても、第三の手作り紙幣では使うことすら出来ないがどうするのか？」

と尋ねると、

その男は

「お金を使っているようでは、お金持ちになんかなれません。お金は使わず決して離さないということが、お金持ちに

なる秘術なのです」
と答えた。